

1. アジア諸国の植民地化

南アジア

(イギリス) 東インド会社：インドほぼ全域を植民地化 (19C 半ば) →

(1) (1857~59)：(2) (インド人傭兵) が反乱を起こす。→ (3) (1877~1947) (イギリスが直接統治) の成立。

(4) {(5) 派} の結成 (1885) → イギリス人が (6) (1905, 1911 に廃止) を出し、ムスリムとヒンドゥー教徒の分断を図り、親英的な (7) (1906) を結成させる → インド全域で、(8) (民族独立)、(9) (国産品愛用) を要求する反対闘争。

東南アジア

(10)：16C 後半～スペイン領 → 19C 末に アメリカ領 に。

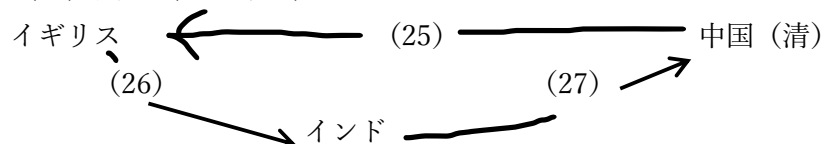
オランダ：(11) 島 (12) で (13)、(14) を実施 → (15) (20C 初め) の成立。

イギリス：(16)、(17) 島などを植民地化 → (18) を形成。3 度の (19) の末、ビルマ (ミャンマー) をインド帝国に併合

フランス：(20) を侵略し、(21) (1867~1945) を成立させる。

19C 末には (22) だけが独立。※ (23) が近代化。

(24) 貿易 (19C 半ば)



※ (28) が用いられ、イギリスが得をするようになっていた。

(29) (1840~42)：(30) により アヘン密貿易取り締まり に対し、イギリスが清を攻撃 → (31) により清が開国。(32) がイギリスに。

2. 辛亥革命 p.138~151

日本

朝鮮半島をめぐる (1) (1844~95) で勝利 → (2) で (3) のみ獲得。中国東北部をめぐる (4) (1900~05) で勝利。

※ (5) (1902)。朝鮮で 閔妃殺害事件 (1895)。(6) を弾圧して、(7) (1910)

中国

(8) (1851~64)：キリスト教の影響を受けた、(9) の乱、(10) (1856~60)：英仏連合軍が清での利権拡大を狙って起こす → (11) を結ばせ勝利した英仏が清の内乱鎮圧に協力。

(12) (1898)：明治維新 に倣って (13) を説く (14) らの運動が (15) ら保守派の反撃に

あい失敗

(16) (1900~01):「扶清滅洋」を唱える義和団が北京に入るが 8 国連合軍 に敗れる、清は (17) に調印させられ、半植民地化がさらに進む。

(18) が東京で (19) を結成 (1905)「民族、民権、民生」の (20) を掲げる→武昌で清朝軍が反乱を起こし、(21) (1911~1912) に発展→(22) が南京に成立 (孫文が臨時大総統) →(23) (清朝軍の軍閥) が (24) の退位を条件に孫文の地位を継承し、独裁化。
→中国は分裂状態に。

西欧 (先進資本主義国)

19C 末~ (25): エネルギー源は (26)。 (27) の時代を迎え、(28) が生まれる。

※ (29)、(30) ((31) など)、(32) や (33) の流行。(34) の整備、(35) への移住、(36) の展開、(37) の発展。

3. 帝国主義 p.152~157

19C 末~ヨーロッパ列強が武力を背景に新たな植民地争奪戦→侵略的で植民地統治を伴う領土拡張主義を (1) という。

※日本・アメリカ{ (2) を倒し、1898 にハワイ諸島併合 }も参加。

アフリカ: ベルリン会議 (1884~85) の決定に従って (3) と (4) を除き、列強により分割、植民地化。

(5) (1899~1902): オランダ系ボーア人に対し、イギリスが勝利→白人優遇策 (6) (人種隔離政策) に進展。

※アフリカ分割によって引かれた人為的な境界線は、現地の民族や文化・社会、習慣の違いを無視し、各地で対立や抵抗を起こす。現在の内戦、紛争の原因。

19C 後半~1920 頃 (7) (中国人/漢人の海外移住者) や (8) (インド系移住者) など大規模な人口移動の時代、日本人は九州沖縄・中国地方などから、(9) に移住。プランテーションで働く。※10C 末 ロシアでユダヤ人「大迫害 (10)」 → 7 割がアメリカへ移住。

(11): (12) (1891~94)、(13) (1904)、(14) (1907) によって成立。イギリスの (15) 政策: ケープタウン・カイロ・カルカッタ を結ぶ。イギリスがドイツと対立して、ロシア・フランスと協力。

(16) (1882~1915) (ドイツ・イタリア・オーストリア): ドイツの (17) は「世界政策」を推進。ドイツの (18) 政策: ベルリン・ビザンティウム (イスタンブル)・バグダード を結ぶ。

オスマン帝国：(19) (1908) により民主的な (20) が復活。バルカン半島は「(21)」→2 回の (22) (1912～13)、ロシア中心の (23) 主義 vs ドイツ中心の (24) 主義。

4. 第一次世界大戦 p.158～161

1908 オーストリアが (1) を併合→1914 南スラヴの統一を目指すセルビア人青年がオーストリアの帝位継承者夫妻をサライエヴォ (ボスニアの州都) で暗殺 {(2) 事件}

→オーストリアがセルビアに宣戦→列強の参加→ (3) へ (1914～18)。

(4)：独・オーストリア＋オスマン帝国・ブルガリア

(5)：露・仏・英・日＋伊 (1915～)・米 (1917～)

(6)：(7) で仏軍が独軍を阻止。(8)：(9) で独軍が露軍を破る。

どちらも戦争が長期化し (10) となる。

※ (11)、(12)：飛行機、潜水艦などの新兵器、(13)、インドなど植民地からの兵士派遣、イギリス中心に (14)。(15) 事件 (1915) →ドイツの (16) 作戦 (1917) →アメリカの参戦→(18) 事件：労働者のデモに軍隊が発砲し、多数の死傷者が出る。

1917 (19) ① (20)：首都ペトログラードで労働者がパンを求めてデモ→(21) の結成。臨時政府の樹立。(22) (ロマノフ朝) の退位。

② (23)：(24) (のちの共産党) の指導者 (25) が「すべての権力をソヴィエトへ」、「パンと平和と土地」をスローガンにソヴィエト政権を樹立。

ドイツと (26) (1918, 3) →革命の波及を恐れた英・仏・米・日が (27) (1918～22) を起こす。→ロシアが (28) を導入。※ (29) (ソヴィエト政権側) が「反革命勢力外国軍」に勝利 (～1920)。1922 (30) が成立。

5. ヴェルサイユ体制 p.162～171

(1) (1919)：アメリカの (2) 大統領が「十四か条」の講和原則を提案→(3) により、ドイツは植民地を失い、軍備制限と巨額の賠償金支払いを課せられる→(4) 体制 (ヨーロッパの新秩序) の形成。(5) の発足 (1920)

(6) 会議 (1921～22)：アメリカや日本などが海軍軍備制限などを確認。アメリカ主導の

(7) 体制 (東アジア・太平洋の新秩序) の形成。※1920 年代のアメリカ・繁栄の時代。

(8) が暴力で黒人を迫害。

ドイツ：民主的な (9) 憲法を持つ (10) (1919～33) となり、(11) が協調外交を展開。

1925 (12) 条約：ヨーロッパの集団安全保障体制を定める。

1928 (13) 条約：国際紛争の解決に戦争を手段としないことを決める。

(14) 革命：(15) (「トルコ人の父」) と呼ばれた (16) が、オスマン帝国のスルタン制を廃止 (1922)、(17) を樹立 (1923)。(18)：イギリスによる 多重の秘密外交 が直接的要因。

① (19) (1915)：アラブ人移住地の独立を支持。

② (20) (1916)：パレスチナなどを英仏らの国際管理下に

③ (21) (1917)：パレスチナをユダヤ人の民族的郷土に。

(22)：イギリスに対する (23) を展開→インド全土に拡大。例) 糸車の操作。塩の専売制度に反対する「(24)」(1930)

6. ファシズムの台頭 p.172~179

朝鮮：(対日) (1) (1919) →武力弾圧から同化政策へ。

中国：(対日) (2) が高まり、孫文が (3) を結成 (1919)。(4) らが (5) を結成 (1921) → (6) (1920)。(7)：(8) を進め、南京政府を建て (1927)、中国をほぼ統一 (1928)

(9) (1929)：ニューヨークで株価の大暴落。恐慌が世界中に拡大。

(10) がアメリカ大統領に。(11) (テネシー川開発計画など) に着手 (1933)。

※イギリスなど：(12) 化

(13)：(14) (1928~32、1933~37) で工業化を進め、(15) による農業集団化を推進。

一方で、「大粛清」。

(16)：反共産主義を掲げ、暴力や対外侵略によって国民統合を図る独裁体制。極端な人種偏見や領土拡張主義を唱える。

イタリア：(17) 率いる (18) 政権 (1922~43) →エチオピア侵略 (1935)。

ドイツ：(19) (1934~ (20)) 率いる (21) 政権 (1933~45)。

(22) (1933) で一党独裁へ。(23) (1935)。ドイツ民族の優越を唱え、ユダヤ人を迫害。巧妙な宣伝活動 (集会やパレード)

スペイン：(24) (反ファシズムの連合) 内閣が成立 (1936) → (25) 将軍らが反乱を起こし、内戦へ→ (25) 側の勝利 (独伊が支援) (1939)。

※ (26) の「(27)」：ドイツ空軍による爆撃への抗議を込める。

7. 第二次世界大戦 p.180~184

(1) (1931) →傀儡国家の (2) 建設 (1932)。(3) を皇帝に。共産党が内戦停止と (4) の結成を呼び掛ける→ (5) (1936) → (6) (1937~45)。※1937 (7)。(8) 協定。

日本軍：中国人に対して細菌・毒ガスを使用、三光作戦や生体実験を行う。

1938 ドイツ：オーストリアを併合→ (9) で宥和政策→失敗。1939 ヒトラーがチェコスロバキアを解体し、(10) を結ぶ。9月にポーランドに侵攻し、英仏が宣戦布告。

(11) へ。(1939～1945)。※ソ連もポーランド東部・フィンランドに侵攻し、バルト三国を併合。

1940 ドイツがデンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギー、フランスを占領。

※6月にパリ占領、南部に親独のヴィシー政権が成立。

(12) がロンドンに亡命政府を作り、(13) を指導。1941 ドイツがユーゴスラヴィア・ギリシアを制圧。ソ連に侵攻し、(14) へ。

※(15) (1942～)・(16) などの絶滅収容所などで大量殺害 (17)。

※(18) (1941) : (19) (英) と F・ローズヴェルト の会談。(20) につながる。

日本 : (21) 同盟 (1940) と (22) 条約 (1941) を結ぶ。→マレー半島と真珠湾を攻撃 (1941, 12/8)、(23) へ (1941～45)。「(24)」建設をスローガンに東南アジアを占領。

※占領地域を植民地支配し、連合国軍の捕虜や現地の労働者に強制労働させる。

米軍 : (25) (1942) から反攻に転じる。